



①発信する ②追究する ③粘り強く ④つながる ⑤思いや願いを実現しようとする ⑥課題解決する

みんなで学びを創る

校長 坂本陽子

今年は何年より2週間ほど早くプール開きを行うことで、夏休み前までに集中して水泳学習を行い水に親しむことや自分のめあてを達成できるようにしました。例年ですと雨や気温が低い状況が続き、水泳学習を行うことが難しいということもあり早めの開始を試みてみたところです。今のところ、どの学年も順調にプールに入ることができています。熱中症の危険を避けるためWBGT（暑さ指数）を見ながら水泳学習をはじめとする教育活動を行っていますが、今後も暑さを考慮し工夫しながら教育活動を進めていきたいと考えています。

さて、今から15年ほど前に市内の小学校に勤務していた頃の話です。4年生は2クラスで、1クラス21人の学級を担任していました。当時給食は、グループ会食の形をとっていました。その中にいたKさんは発想豊かで友だちが大好き、やさしく、活動的な子どもでした。「先生、今日学校から帰ったらドクダミ茶を作るんだよ。庭にたくさんドクダミが生えるからね。毎年、作るんだ。」周りで聞いていた子は、「ドクダミってくさいよね。」「お茶を家で作るの?」と、興味津々。「先生、飲んでみる? 今度ぼくの家に来て飲んでみてよ。おいしいよ。」Kさんはお茶作りのことやお母さんと会話していることのエピソードを表情豊かに話してくれたので、私も子ども達も引き込まれ、気づけばクラスの皆がKさんの周りに集まっていました。給食の食器の返却時間も忘れて・・・。

この流れの先は想像に難くないと思いますが、その年の総合的な学習の時間は「ドクダミ」からスタートしました。ドクダミ茶を作って飲んでみたいという子ども達の願いを学習として成立させるためには、その活動を通してどんな力を育てていくのかを明らかにする必要があります。子どもの興味・関心、願いをもって学習の材料にすることは、学習の一つのきっかけにすぎません。「ドクダミ」を材料にして学習していく中で、問題を発見・解決する力、情報を収集・整理・分析する力、思考力、コミュニケーション力、表現力等が育まれることを目指しています。こうした力は、教科の学びとつながりながら、実体験を通して深く身に付くのが総合的な学習の時間の特徴です。専門家の人と関わったり、実際に育てたり、作ってみたりすることは生活科の学習にも共通することです。このように子どもたちが身に付ける力は、これからの社会を生き抜くためにとても重要なものばかりです。また、学習したことを振り返ることで、新たな発見や気づきもあります。

いちばんの願いは、子どもも先生も学ぶことにワクワクした気持ちで、とことん活動し学ぶことの楽しさを味わってほしいということです。その先には、達成感や満足感、一体感などが待っていると思います。

今年度、初音が丘小学校では生活科・総合的な学習の時間を校内研究として重点的に取組んで参ります。私たち教職員も、学習指導要領を理解し子ども達に必要なと考えられる力をどのようにしたら育てていくことができるのかを学んでいきます。クラス、学年でテーマ、材料を決めて子ども達と一緒に創っていく学習となります。このような活動ですので、保護者、地域の皆様のお力添えをいただくこともあると思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。